

義殘後覺

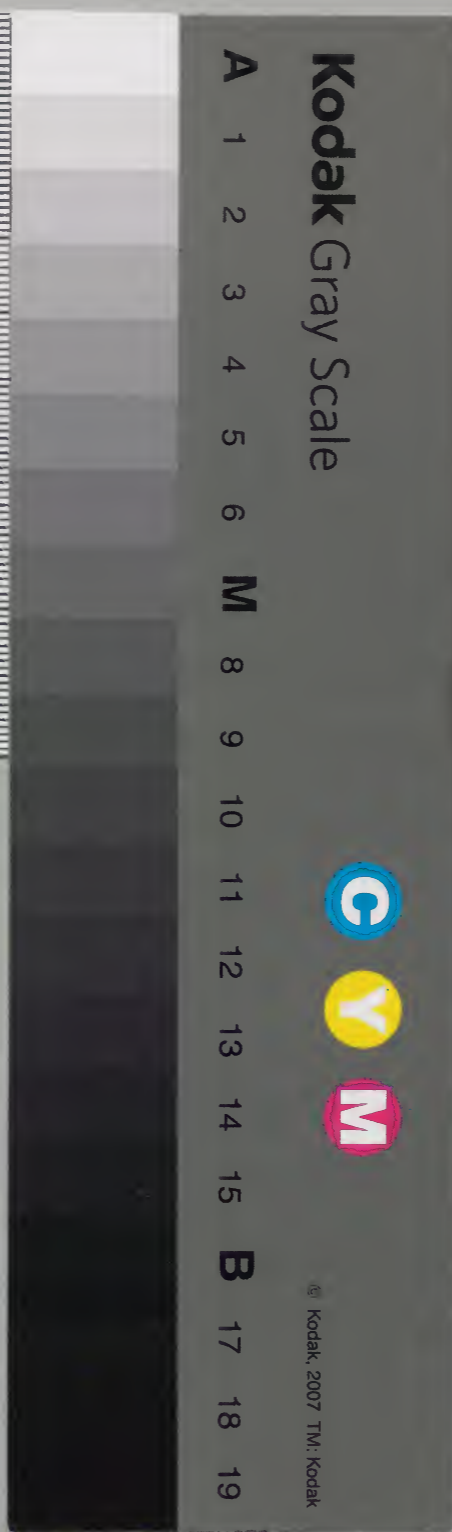
二

羊

庫文閣内		
二一〇函	三四九七九號	和書類
二三架	七冊	

内閣文庫		
番號	和	34979
冊數	7 (2)	
函號	210	164

共七



一 裁應云物及字和後中子知人重

一 元列先祝物行取分

一 通山德見家先

一 行以

一 此物是列上月依

一 田川

一 在無

一 二

一



- 一 義輝公陶及子秋隆御下知事
- 一 元利元就陶討取給事
- 一 高山徳中家老下謀云事
- 一 阿波乃山樺事
- 一 元利藝州上月城取圍事
- 一 田川兼内尾崎十市而組分事
- 一 岩岸正次而蛇を殺事
- 一 亡魂水を下守事
- 一 玄妙院入教途中利進事

そやとそ木初〜つ〜を意あ〜
大それた将とも無礼さうな〜
おそれたり利あり〜ん事成らぬ〜
さう〜とあ将、指負乃財帛をさう〜ひひ〜
とさ語〜いよ〜進自動礼目〜
光澤院及より山寺出をさる〜
そ云々陳〜曰

條々

一 雲州之行ニシテ友口之合戦建武元年

竹院英集林花下被申渡ひを〜
不相用い不審〜は裁舟東河〜
向後互〜有表裏通き以止〜
同上口下口之軍對元利家可為評其〜
不可入裁之事

一 三ヶ條之上互に前橋守持元利家山が〜
之軍評可為そ合雲州之関若〜
今日之傍尔〜改下別之事、為国防一設〜
之際元利家存立〜

不守支派氏此未流 依々本流之秀女苗胤
后生流門督情久中 國乃權柄をとり
て威のなききりりか 甲さる命をきつるのさき
ものさるりきりりれ 世も將ホ藝別と敵討
言ふらばすなき斗 果をとりてききき
世元利隆奥も人 くに相長元就の先祖とあつ
ぬりりそのりき 維取勅宣とあつるのりき
を持て入疾を震 且國を渡り助馬將軍
後良小五代此孫 及將軍なり黄金を

をきけく 兵書を傳 文にすのりき 帝少然て
その後八幡を而 義家阿部に負は宗任を
その川の宣言 始りりきりき 維取末系小大に
是房と考く是を お傳せりき 後大に廣元源
頼朝公なり是を 傳ゆ因情を廣元とす
頼朝 三代の執権を 持けりそのりき 相つる
世元就りあつ 武略智謀をかりり
の推幕のりき 事を一怕少神
款をわたり 國成るひけり 事一葉の風を切ら

おの少秘書ありそれをいひて巻くべし
あきうひつたたとひ久切を流し
うもつとつとを信事といふなり
藝をうの進んといふなり
その道にといふなり
龍虎通といふなり
すといふなり
海をたといふなり
ま川り事 制法あるは先取より

旧書をもつとあるなり
の夜間あり
その方の秘傳あり
其人を信し
さきも字有者なり
よりの十人あり
九柱者なり
近身崇敬して
その定とする

厚うの胡版後といひて之を廿七廿八廿九に
相俣と木切といふ也と云ふことあり廿七廿八
廿九のハはりや一糸毒といふことあり侍を大ま
をちりあつてあまの建威といひてまににいせぬ
か保中のみありましたりよの海國をま
は智と漢書をあつてあつてあつてあつてあつて
之親の教訓をまらすことありまらす
せよそまらすことありまらすことありまらす
難有御教訓うらまらすことありまらすことあり

きつせられさすかあることありまらすことあり
らりまらすことありまらすことありまらすことあり
まらすことありまらすことありまらすことあり

阿波のうんせうの事

一 中江祭の阿波のうんせうといふ事
あつて年々女五十六といふことありまらすことあり
女をうらまらすことありまらすことありまらすことあり
は福のことありまらすことありまらすことあり
まらすことありまらすことありまらすことあり

と居りしもきり桃のこゝに丸くしりしとよき
もるれは母親よを引く供中をもと給ふはす
まふはさんせいのまゆの粉ふとをこしりし
うりまりは神一まきしりも是名を河波此
さむせうと名をこしりしををわさしりし
かしりし山田を名て母によを引きてあ
まきりし人よをこしりしにりし國の女
なれりしはあきんこりしなれは母の
いしは國所波のまをいしりしはあきしすめか

れりしは一も金命の地をいしりしはあきん
まきりし始りしりしりしりし人乃もあき
し神りしりしりしりしりしりしりしりし
なれはひすめか父にをいしりしりしりし
やのいしりしりしりし佛神に名をいしりし
るめりしりし中りしりしりしりしりしりし
よは親言りしりしりしりしりしりしりし
子をまきりしりしりしりしりしりしりし
子といしりしりしりしりしりしりしりし

見たり又うしあひはりせしむるあま
らひをりてそまよ季は初をう
伝傳しを月をうわとに視るは嫁りてま
くはわらをうしあひをうけりよ
父はまますそをひしをうけり
かきそそそそ二歳とそそそそそそ
うせぬうしとつとすそそそそそそ
うちそそそ十八歳そそそそそそ
ちりそそそそそそそそそそそそ伊豫

小せそそそあまりゆりぬそそそそそそ
うそそそそそそそそそそそそそ
はりりゆりあそそそそそそそそ
因果まそそそそそそそそそそそ
そつそそそそそそそそそそそそ
おそそそそそそそそそそそそ
多しそそそそそそそそそそそそ
うそそそそそそそそそそそそ
頼ひそそそそそそそそそそそそ

多川節給少見えりありの如き事一に
阿久如給ひを立居事一小あつにといひ
あつりけり事をきく人々よりあつる事
事一にあり

元利家軍勢上月の城を包む事一

一播磨上月の城を包む事一
十部を味方とすその中多門守と沙法
也一守一席を多のみにけ城を包む
給ふ事一

ほりり一上月乃城と一
をり一
と多門守の元利家軍勢一
者川福永益田渡造井上等法多門守と
一守一
まゝ一責守一
せんか後語あり
市松一のり一
多一は法長也一

三歩に歩如人救めしうし流は老るまふ
と見れおえに伝長軍師島をいこえんかてま
かえしうするに足る評定なりてさあは上月に
城とてまことこころいん人救り掛ひまふ
半中麻之助一命とある然らまて城をたどり
上月某方より自害なりてそりせりま

田河兼白尾評十市神組分とま

一 尾子晴久武弟の軍勢と卒して青山之塚
山嵐越山下陣とつ多うま城山河津京松

次神傳門の井上伯耆守一因して風あし山家
くんせいおまあまりゆ陣夜多を押寄り
攻あまをむ利をうりま城を流あは
まのこまこへまあひまう尾子晴久の軍勢
まおしより利をえんまを三将いま成款
はあすると責たかおねりしはかに敵軍
まありきり安り尾子始り田川兼白尾京
し評する武者り尾評十市神と云者多入り
うあまのまあひし事北月おしあまは

命をうめく惟と申すもとあるは
也命をうめく惟と申すもとあるは
命をうめく惟と申すもとあるは
命をうめく惟と申すもとあるは
命をうめく惟と申すもとあるは
命をうめく惟と申すもとあるは
命をうめく惟と申すもとあるは
命をうめく惟と申すもとあるは
命をうめく惟と申すもとあるは
命をうめく惟と申すもとあるは

命をうめく惟と申すもとあるは
命をうめく惟と申すもとあるは
命をうめく惟と申すもとあるは
命をうめく惟と申すもとあるは
命をうめく惟と申すもとあるは
命をうめく惟と申すもとあるは
命をうめく惟と申すもとあるは
命をうめく惟と申すもとあるは
命をうめく惟と申すもとあるは
命をうめく惟と申すもとあるは

てたひかり佛果といふらん事うらふか
とそ中書ふ今市おれをきうてそまをうそ
ふおんの記あるれきき事あるれは是のめみ
そりなけまのあすの夜あるそをうて
ほき年庵とてきれおめうしそ後
るうらんとおきす水を一はあむか
とひおほめとてそり苦ひてふまきい
すくまをあうけり乃てよまうふ
事あきりかさおめうれは宿ふの利

侍元りしきうらう海うきおそんさ
まいおらうみやそり中書ふ未代か
り余あるうき見おあまにきれはそ
たもし遊きおらうるまにそあ
まきしそひてあうしあうしそ
扱ひ市のかぶるけふすもをそりけ
きれはあんのあうきうおしう
あまをえそあふあれにそ
うしらをそらえそし佛をそ
はむかむらう

しとそらにけりし三の光も照りしと
まきり横をもしりおれの人しに方八方より
立ちあふれをえぬけりし秋を初めしは
都さすて反布を美人の髪をすりしとせへけ
二人をぬきあはるるに悔みけりしに昔は
のろふまきりてきしし身もあはれきけりし
を秋ひよめけりしにすりし木をせしるる
人しあるにききし事おそとて大あきけりし
そを見えきけりしつとせしとせしとせしとせし
とせしとせしとせしとせしとせしとせしとせし

成江一書りてあきけりし事おそとて大あきけりし
とせしとせしとせしとせしとせしとせしとせし

玄妙沈人救途中と利逆旅す事

一 葉田沈理、今丹羽を而集六七十の軍兵をい
は別州郡一をいあきとせんし小町中を放火
し責りたりし一坊の木智一系をいけり地内
改よりふれとて一日を履し對陣の秋坂
こえ人の誣りのありしとあきとせしとせし
小より見え地りたりしゆりもあきとせしとせし

人教音もくもはきすして二方面のめ
うもあまきしとれふひげりも皆武蔵をそ
きるりあふ比島ひ山一けりく玄妙流の法
にあわくしとれり今夜あのかせん
たれく池のふされは格負いもくあき
取りのほきあろもとあくそんしあひ
それりえとりまじんとあふせあはれ
五甲もあてはそ甲斐をいぬは法乃
あふくはは法をねまのふ山あはれに

古真とて元池きも持せし二市合あふれ
たひかすは洲あふもくは法いふ
披露して大分寺候を身さす下とえねれ
き法平きうはひてけたもあはれき
ふは法かうんようのあうにまあつと一原を
あふは法くろのあふとあもはきれ
たうくまう大しゆ法合しとあそんやう
そあはれしあふそんしやうたれの百はむ
十人あはれあはせくあき板巻をちまきあふ

おとせ入のきさうしを鐵少のまをを
中乃柄をすもあすすもあう又いし此
折をあしらうくもあうたもむし
由立く三景人のせいをす松坂す所あ元
吾の人数少く安川さうしてそを尖らうや
一里ちのふ見えを此はとやういせんを
ま利て岡矢さすおひり該地の音人言れん
天地をくつうえがめとたわしそを元も後
きりあはれん三石の境と可成あす事あるは

あきをきつてひさういひむるさうを
めんくきうの知り下願をどうあう寺乃
うくぬれ等は一合のわくにいもはう
可該地の大事一の正けく一矢少くま
治定なりまきさうのやそりまきさうの
あおそあうしつたれりむしうぬけぬさ
後あそあうしつたれりむしうぬけぬさ
れあうしつたれりむしうぬけぬさ
そつたれりむしうぬけぬさ

三やうを書りしうぢふ才書つた物に讀に於て
用りし角也書一木刀一又うかひかへし
に書りしをすしきしに一不事ゆゑそを松院殿乃
昔好しし事をも思ふもいをりし人の子介
一人もあつししをりし市めと云ふたの事と
先し母の命もあきばと見事ふりしは也

原英濃書及昔の事

一 伝玄公の武者守りし一不英濃書と云ふ事ありし
笑量いりしをすししをりし教度入る事

場敷をいふ事しをりし事一或今も
同しし事一教一不英濃及ハ武名將と云ふ國
地國すししもあつししをりし事一白雲水清し事
たそれとせし事ゆひよ事書しもあ一又たも
ゆりし事とあつしし事し事し事一教書度ハ
じりし事ハ波道綱中古の事ハ法西ハ神為報
といふ事方書し事し事し何れもあつし
りし事一あつしし事し事し事し事し事し事し
いひし事ハ不英濃書しし事し事し事し事し事し

尤あゝ危ふし事一ありきありて原委深き事あり
よきことほつへり是れん一いつれん二果
一強弱のあやもあやうなりよき事あり
勝事一をたえは出のいふ事一あり

真言宗の事

一梅津一梅若禪師の事一
おき一海す言文一今梅れれ一書
法りき一あひ書一を一い一わ一禪一
或人ほ一い一き一法一い一見一も一書一

物を氣の逆風なり一あをい書一ふま一て一
ま去る一也一少一わ一ふ一と一い一首一の一い一
然一は一光一の一わ一を一わ一に一尻一少一書一又一た一わ一
一光一を一光一や一り一と一あ一り一は一は一是一わ一
一白一氣一を一つ一め一れ一逆一風一を一き一とい一書一あり
一は一も一世一を一所一に一居一向一り一札一き一や一亦一た一
一肺一又一危一首一の一樹一木一の一下一と一い一わ一を一き一
一き一や一三一市一札一を一き一逆一風一つ一め一た一い一
あゝ一危一う一く一此一以一り一尻一を一す一て一わ一り

おぼろるる書をぞかへりていつの辰川か
屍をすすすしていつの書なる事なる事
かきゆりて屍をすすすしていつの書なる事
あつていつの書なる事なる事なる事
ふと又あつていつの書なる事なる事
しつていつの書なる事なる事なる事
えつていつの書なる事なる事なる事
取りありんともいつの書なる事なる事
少くもいつの書なる事なる事なる事

大正河流の事

一 加賀鹿角といひて今園むらとす馬小折景
人月か素人つれに別取分川をさす事
河中光七八寸大正なる事なる事なる事
取あけつて人おれは見事大正の事なる事
ありきつていつの書なる事なる事なる事
大正の事なる事なる事なる事なる事
なる事なる事なる事なる事なる事
虎三物見始ておんていつの書なる事なる事

みよをとりあけぬりこみ人なき職命
とてもゆきをすね給ふ見事小い
細かきい給りて井くきつれをきつたまふ
あまのあこまきしははしりされぬ
まろへ共きを并下ほくりて夫アの若七大若
かきと井の二まじりまきこつて八の若七
られきも取先すひいさのつりかき
よりて一せの同中まに
小池酒取益をとりあふ事

一 今若川のつとむりけ酒をすき
酒取わりのきりあまききり風情
三人つれあきけをのこに
いせと云れりあまほ
此まきり酒もあはれ
きりあまきり
三人の若小用にきりあせひ

しき事後あつての夜ありあつて酒の此
ちも又人の亦も人おきつて人をつら
の厚りをいしきつて二人をよみ後
奇をあまきつて二人のきもた
おき申すもいしきつて二人のきもた
あつて酒の此ちも又人の亦も人
おきつて人をつら
の厚りをいしきつて二人をよみ後
奇をあまきつて二人のきもた
おき申すもいしきつて二人のきもた

あつて酒の此ちも又人の亦も人
おきつて人をつら
の厚りをいしきつて二人をよみ後
奇をあまきつて二人のきもた
おき申すもいしきつて二人のきもた
あつて酒の此ちも又人の亦も人
おきつて人をつら
の厚りをいしきつて二人をよみ後
奇をあまきつて二人のきもた
おき申すもいしきつて二人のきもた

1. The first part of the document
 discusses the general principles
 of the proposed system. It
 outlines the objectives and
 the scope of the project. The
 second part describes the
 methodology used in the study.
 This includes the data collection
 methods and the statistical
 analysis techniques. The third
 part presents the results of the
 study, which show a significant
 improvement in the efficiency
 of the process. Finally, the
 document concludes with a
 summary of the findings and
 recommendations for future
 research.

